

No.	医療機関名	設置主体	現状															今後の方向性															2017年と2025年の病床数の差異														
			第7期保健医療計画における役割 (※「医療機関一覧表」記載の有無)							医師数等 (2017年病床機能報告結果)								機能別病床数 ① (2017年病床機能報告結果)							各プラン、事業計画に記載された担うべき役割								機能別病床数 ② (アンケート結果)					②-①									
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	医師数	病床利用率	平均在床日数	救急車受入件数	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	非稼働	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等	介護医療院への転換	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
1	岐阜県総合医療センター	公立	○	○	○	○	○	○	○	○	210.9	78.6%	9.1	5,721	604	326	264	0	14	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	620	326	264	0	30	0		16	0	0	0	16	0	
			<p>○岐阜地域の基幹病院として、近隣の医療機関との役割分担・連携の下、高度・先進医療、急性期医療、政策医療等の県民が必要とする質の高い医療を提供する。 ●2025年に向けて、慢性期16床増。</p>																																												
2	岐阜市民病院	公立	○	○	○	○	○	○	○	○	165.0	82.0%	11.7	4,826	559	207	352	0	0	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	539	187	352	0	0	0		▲20	▲20	0	0	0	0	
			<p>○救急医療・がん医療を軸とする高度・専門医療の提供 ○政策医療(救急医療、小児医療、精神科医療、災害医療など)の提供 ○地域医療機関との連携による切れ目のない「地域完結型」医療の提供 ●2025年に向け、急性期20床減。</p>																																												
3	羽島市民病院	公立		○	○	○	○				41.5	75.9%	13.3	2,032	271	0	178	76	0	17	17		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	271	0	178	93	0	0		0	0	0	17	0	▲17	
			<p>○地域住民の生活基盤として必要不可欠な二次救急医療・急性期医療機能を果たしつつ、地域に不足している回復期機能、及び在宅療養後方支援の機能を担う地域医療サービスを提供する。 ●2025年に向け、非稼働病床17床を回復期として再稼働。</p>																																												
4	岐阜大学医学部附属病院	公的医療機関等2025プラン対象	○	○	○	○	○	○	○	○	397.0	87.0%	11.1	1,393	577	577	0	0	0	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	577	527	50	0	0	0		0	▲50	50	0	0	0		
			<p>○地域医療構想において「岐阜大学医学部附属病院(高度救命救急、ドクヘリ基地、基幹災害拠点、がん拠点等)が県全体の急性期医療の中心的役割を担い、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が、岐阜大学医学部附属病院と連携して、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う。」とされていることから、本院として、この方針に沿った役割を担う。 ●2025年に向け、高度急性期50床を急性期に転換</p>																																												
5	松波総合病院	公的医療機関等2025プラン対象		○	○		○	○			122.7	89.9%	13.7	3,813	501	262	60	120	59	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	501	262	60	179	0	0		0	0	0	59	▲59	0		
			<p>○岐阜圏域南部地域の急性期医療・救急医療について 岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っていく。この中で当院が最も南部に位置していることを踏まえ、3病院の指導・協力を受けながら、岐阜圏域南部地域の急性期医療、救急医療の中心的役割を担っていくべきである。(※その他救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療について記載あり) ●2025年に向け、慢性期59床を回復期へ転換。</p>																																												
6	長良医療センター	公的医療機関等2025プラン対象		○	○		○	○			36.2	70.6%	21.9	328	416	0	236	0	180	0	0	○	○		○			○	○			416	0	236	0	180	0		0	0	0	0	0	0			
			<p>○呼吸器・循環器疾患は、地域の高齢化率が高いことから、地域支援病院として急性期医療機能を引き続き担っていく。 ○周産期は、地域周産期母子医療センターを維持するとともに、小児科・小児外科・産科が連携して他院との医療従事者の相互派遣や研修等を行い圏内の産科医療体制の安定化に寄与していく。 ○障がい者医療(神経筋疾患・重症心身障害)は神経内科医師を配置してより専門的な医療を提供するとともに、神経難病も受入できる体制を構築する。NICU退院後の障がい児の在宅医療への移行に向けて、退院前後の訪問指導を行うなど家族が安心できる環境・体制を構築し、地域生活支援を行う。 ●2025年の病床数(予定)は現状維持。</p>																																												

No.	医療機関名	設置主体	現状																今後の方向性											2017年と2025年の病床数の差異																		
			第7期保健医療計画における役割 (※「医療機関一覧表」記載の有無)								医師数等 (2017年病床機能報告結果)				機能別病床数① (2017年病床機能報告結果)						各プラン、事業計画に記載された担うべき役割					機能別病床数② (アンケート結果)						②-①																
			がん	脳卒中	心血管疾患	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	在宅	小児	在宅	医師数	病床利用率	平均在床日数	救急車受入件数	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	非稼働	がん	脳卒中	心血管疾患	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等	介護医療院への転換	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等	介護医療院への転換
7	東海中央病院	公的医療機関等2025プラン対象	○	○	○	○	○	○	○	○	62.0	80.5%	9.5	1,668	332	12	241	64	15	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	332	12	241	64	15	0		0	0	0	0	0	0		
			<p>○引き続き、地理的に急性期医療を要する病院として、救急医療、脳卒中、心血管疾患、整形疾患への対応を中心とした急性期医療の提供体制を維持し、同時に地域包括ケア病棟にて地域における回復期機能の一翼を担う。また、既に実績を上げている緩和ケア医療については、継続して地域における終末期医療の中核としての役割を果たす。</p> <p>○地域医師会や開業医との連携推進や市の行政や地域福祉との連携を継続し、患者や市民サービスの向上に努める。</p> <p>●2025年の病床数(予定)は現状維持。</p>																																													
8	岐北厚生病院	公的医療機関等2025プラン対象	○	○	○	○	○	○	○	○	29.0	66.9%	22.5	1,174	316	0	144	60	60	52	52	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	262	0	120	88	54	0		▲54	0	▲24	28	▲6	▲52			
			<p>○限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があります。今後、更に高齢者の比率が高まるなか、地域の医療需要に応えるため、地理的要因により急性期から回復期・慢性期医療まで中核的役割(中核病院)を担う。具体的には、4疾病の診療体制の充実、救急医療の体制の維持、災害時の医療提供体制の維持、地域医療機関等との連携の推進及び予防医療の促進に取り組むと共に、地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割を担う。(※ 詳細については「公的医療機関等2025プラン」参照)</p> <p>●2025年に向け、急性期24床増、回復期28床増、慢性期6床減、非稼働病棟52床減、合計54床減。</p>																																													
9	岐阜赤十字病院	公的医療機関等2025プラン対象	○	○	○	○	○	○	○	○	52.6	66.2%	8.5	2,009	300	10	290	0	0	0	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	268	10	258	0	0	0		▲32	0	▲32	0	0	0			
			<p>○地域医療構想で求められている災害拠点病院、感染症指定医療機関の役割を果たしつつ、高度急性期や急性期としての病院機能を維持していくことになるが、その規模については引き続き検討が必要である。一方で高齢化が進み、独居高齢者や高齢世帯が増加し、家族による介護力低下や地域コミュニティのサポート体制の脆弱化が進む中、地域医療支援病院として在宅医療への関わりも重視すべきであると考えている。訪問看護ステーションの開設、赤十字健康生活支援講習等指導員の地域への派遣等、様々な内部資源を地域包括ケアシステムに最大限に生かしながら、地域住民や行政等と連携した活動を推進し地域福祉の充実に寄与したいと考えている。</p> <p>●2025年に向け、急性期32床減。</p>																																													
9病院計																			3,876	1,394	1,765	320	328	69	69												3,786	1,324	1,759	424	279	0	▲90	▲70	▲6	104	▲49	▲69

備考欄の
○は、アンケートの「2025年に向けて担うべき役割」から転記(抜粋)
●は、2017年度の機能別病床数と2025年の機能別病床数(予定)を比較したコメントを記載